

「郵趣MYコレクション展2025 郵便切手部門」作品解説

※展示作品の紹介は作品番号、フレーム番号、作品タイトル、氏名、日本郵趣協会会員番号(会員のみのみ)、都道府県、作品解説の順になっています。

【A.伝統郵趣、ステーションナリー、印紙】

PH01(PH01－PH04)

額面50円切手から始める切手趣味週間切手

行徳 国宏 (S-173291・埼玉)

51年発行から平成3年までの主題の切手を各年3リーフ(使用済み・消印別、国内特殊郵便使用と外国郵便使用)に分けて仕上げた。安価で楽しく、完集が可能な、多様性ある分野の作品として構成してみた。

PH02(PH05－PH08) 【特別賞(提供：株式会社日本郵趣出版)】

昆虫シリーズ

須谷 伸宏 (S-3030・大阪)

昭和61(1986)年～昭和62(1987)年にかけて発行された「昆虫シリーズ」を製造面(みほん、未使用、連刷形式など)、使用面(使用済、カバー)で分類して展示しました。

PH03(PH09－PH10)

菊切手

日和田 吉彦 (P-128131・北海道)

菊切手を製造面と使用例について、在外局で使用された朝鮮加刷と支那加刷も含めて展示しています。製造面は色調と目打で分類しています。使用例は、基本的な使用例を展示しています。

【B.郵便史、航空郵趣、郵便印】

PH04(PH11－PH13)

戦後80年 空襲で廃止された東京都内の郵便局

濱谷 彰彦 (M-1233・東京)

昭和20年、米軍のB29爆撃機による空襲で、東京都内の市街地の約50%が消失し、郵便局も大きな被害を受けた。終戦までに約300の郵便局が廃止された。展示では昭和20年に廃止された郵便局をエンタイヤで紹介する。

PH05(PH14)

Entires of 1 Sen Black 1876

近辻 喜一 (P-200026・東京)

初の凸版シリーズ「小判切手」は明治9年5月17日に開始された。本作品は黒1銭のみを貼付したエンタイヤ(新聞用ラッパー、定時刊行物用ラッパー、一般カバー、地方郵便カバー、葉書加貼)から構

成される。

PH06(PH15－PH16)

都道府県庁内郵便局の消印

関 好男 (S-5946・神奈川)

全国には、1都1道2府43県の47都道府県がある。そのうち7県を除く40都道府県の「県」庁には、「県庁内」郵便局がある。ここでは県庁内郵便局の消印を集めてみた。「県庁前」、県庁構内」も含まれます。

PH07(PH17－PH22)

梵鐘切手によるカレンダー(楕型印・8年間)

矢崎 邦夫 (S-8817・東京)

梵鐘切手は昭和55年11月、第一種50円時、50g用で発行。翌昭和56年1月の改定で25g60円用になり、平成元年改定で一種62円になるまで、8年強の使用でした。展示は昭和56年1月から昭和63年12月までの8年間の、楕型印のカレンダーで示す。

PH08(PH23－PH28)

群馬県の郵便印(楕型日付印)

森下 幹夫 (L-55・群馬)

群馬県の郵便印を初期から現行まで収集しています。今回、その内の楕型印のパートを出品します。県内全局が収集対象のため、各タイプ各局ごとに整理したものを抜粋し、普段着のままの状態での出品します。

【C.テーマティック郵趣、トピカル郵趣、オープン郵趣】

PH09(PH29－PH34)

郵趣を学ぶ 郵趣を楽しんだ 切手発行100年

松井 晃 (S-9905・新潟)

郵便切手発行100年の切手を通して、郵趣を学び、郵趣を楽しんだ、各国の様子関連(FDC、透かし等)を抜粋した作品です。

PH10(PH35)

燃える劇場・オペラハウス

加藤 和宏 (M-2520・神奈川)

世界各国都市が誇る劇場やオペラハウスが火災や大地震、戦争で焼失することは、社会の大ニュースであり、市民にとっても大変な驚きでした。各種マテリアルに残された“燃える劇場・オペラハウス”の姿を紹介します。

PH11(PH36－PH38) 【日本郵便株式会社賞(グランプリ)】

熱帯地域原産の植物

宝田 嘉久雄 (S-6093・千葉)

陸上植物30万種の3分の2が熱帯に分布しており、まさに熱帯は植物の宝庫と言えます。熱帯地域原産の植物を取り上げ、園芸分類別に熱帯植物・庭木花木・球根草花の3分類にして辿ってみました。

PH12(PH39－PH41)

茶道入門

宮田 和美 (P-194506・神奈川県)

郵趣歴60年は収集のみでした。裏千家(茶名宗和)で40年間稽古しているので、経験を基に、お茶関係の風景印の茶摘、茶畑、茶室、小型印、茶道具、エコーはがき、FDC等全て初日印、業界関係のマテリアル等をまとめました。

PH13(PH42)

切手に見る講道館柔道の技(柔道からjudoへ)

前田 勝郎 (P-155864・神奈川県)

講道館柔道の技には、投技と固技があります。投技には手技・腰技・足技等があり、固技には抑込技、絞技等があり、世界各国で発行されている柔道切手の技を分類し、日本人柔道家たちの切手を集めてみました。

PH14(PH43)

鳩の切手

前田 勝郎 (P-155864・神奈川県)

国際鳥類学会によりますと、ハト目ハト科は42属321種が現存すると言われています。人間とハトとの関係は非常に古く、カワラバトを品種改良して伝書鳩を作りました。世界各国のハト切手を集めました。

PH15(PH44－PH49)

いくつある？MT.Fuji まだまだあるよ「富士山」

中尾 英雄 (S-4159・千葉県)

日本人の心のふるさとと言えば富士山でしょう。世界遺産に登録された姿は、まさに日本一の山です。北斎や広重の浮世絵をはじめ、一体いくつ描かれているでしょう。そこで本作品では、幾種類あるのか、調べてみました。

PH16(PH50)

花の百名山

横谷 一宏 (P-138378・北海道)

「花の百名山」は、山と花をこよなく愛し、日本中の山を踏破した劇作家の田中澄江が綴り、1980年に刊行したエッセイです。ここでは「花の百名山」から一部の山を取り上げ、切手や風景印、各種の葉書などで紹介します。

PH17(PH51－PH52)

世界の橋のヒストリア

西野 昭夫 (S-194737・東京)

橋は陸地だけでなく、歴史と文化をつなぐ。ローマ帝国の石造りの橋から、2000年後、最新の斜張橋まで、街や地域の象徴となっている橋を構造別に分類し、紹介します。

PH18(PH53－PH55) 【榎澤選考委員賞】

ストロー状の口を持つセミ・カメムシのなかま

柴田 茂 (P-142722・東京)

セミ・カメムシのなかま(カメムシ目)をグループ、科別に分類しました。多種多様な姿かたちをしていて同じなかまとは思えない種もたくさんいます。それらを見ていただけたら嬉しいです。

PH19(PH56－PH57)

新幹線の歩み

児玉 民男 (P-194777・東京)

戦前、新しい路線「新幹線」、一般的には「弾丸列車」と呼ばれていた。東京から海底トンネルを通過して中国・北京に到達する予定でした。戦後、東海道新幹線に受け継がれました。現在の新幹線網を中心に紹介します。

PH20(PH58)

覇権をめざした武将

柴 由紀夫 (S-9181・東京)

日本の歴史で武将が活躍するのは、平安時代の平清盛からです。のちに源平合戦を経て鎌倉、室町時代と進み、戦国時代となると多くの多くの武将が登場する。この作品は、覇権を求めて戦った人物武将にスポットをあてました。

PH21(PH59－PH60)

仏具

木村 光一 (S-6073・愛知)

本作品は、仏教に関する法具(仏具)の図案を集め、分類したものである。仏具は読経に用いる經典から、仏を祀る道具、儀式に使う楽器や僧侶の衣服・持ち物など幅が広く、身近な生活に溶け込んでいる。

PH22(PH61－PH62) 【山田選考委員賞】

脇村義太郎「趣味の価値」における切手の世界

田中 秀臣 (P-194699・東京)

脇村義太郎(1900－1997)は経済学者。「趣味の価値」(岩波新書)で切手蒐集の世界を解説したことで著名。本作品は脇村の同書での解説を踏まえ、その内容と現代意義を多様なマテリアルで示した。

PH23(PH63)

切手とエコーはがきを題材とする比較歴史的アプローチ

饗場 利明 (P-178108・神奈川)

本展示は、菊切手(1899～1913年)と初期のエコーはがき(1981～1990年)を題材として、日本の近

代と現代の比較歴史的な記述により、各事象の変遷を示すものである。

PH24(PH64)

数学者

嶋根 浩 (S-194093・埼玉)

古代から近代までの数学者について、発行された切手が多い人や有名な人を中心に、1フレーム分選んでみました。

PH25(PH65－PH67) 【山口選考委員賞】

世界を彩る球根植物

大畑 紀子 (L-72・静岡)

球根植物は暑さ、寒さ、乾燥など生育しにくい時を過ごすため、球根に豊富な養分を蓄えている。他の植物より開花率が高く、長い移動にも強く、美しい花を咲かせる種も多いので、世界中へ広まり人々に愛されている。

PH26(PH68)

私の好きな変わり種切手Best16

荒牧 裕一 (P-143801・石川)

世界の変わり種切手を集めて今年で48年になります。変わり種切手のアイデアやタイプは多様化し、コレクションも充実してきました。それらの中から独断で選んだBest16をランキング形式で紹介します。

PH27(PH69－PH70)

昭和百年－描かれた子どもたち

豊田 邦子 (P-194807・埼玉)

2025年は昭和100年にあたります。日本切手に初めて子どもが登場した昭和の時代に、子どもたちはどのように取り上げられ、どのように描かれてきたのかを時間軸に沿って見ていきます。

PH28(PH71)

国際ロータリー 第22回年次大会(ウィーン・1931)

浜名 賢一 (S-7761・千葉)

国際ロータリーは1931年6月にオーストリアのウィーンで第22回年次大会を開催しました。この時、ロータリー関係では初となる記念切手が6種各5万枚発行されました。その使用例等でこの大会を振り返ります。

【D. FDC、マキシマムカード、絵はがき】

PH29(PH72－PH77)

ゆうペーンの世界

宝田 嘉久雄 (S-6093・千葉)

ゆうペーンは切手帳の異名で、昭和62年－63年に大盛況となりました。本作品は、ゆうペーンの表紙のデザインを図案・発行目的・地方郵政局別に分類したもので、今は見られなくなった魅力を懐かしんでください。

PH30(PH78－PH81) 【特別賞(提供：日本フィラテリックセンター)】

川瀬巴水と「渡辺版」初日カバー

小田嶋 永 (P-191129・東京)

「渡辺版」初日カバーに川瀬巴水の木版画がカシエになるものがあることを知り収集を始めました。巴水は新しい浮世絵版画「新版画」を確立させた一人で、国内外で大変な人気を博す巴水の木版カシエにご注目ください。